

令和7年度 学校評価 最終評価

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	質問項目	中間集計結果	分析 (成果と課題)																																	
(1) 授業力と専門性の向上	① <授業改善> 「新たな教師の学びの姿」を踏まえ、各自が学校研究を推進し、深い学びへの授業改善を行う。	研究推進課 全学部	主体的に研究会や研修会に参加し、深い学びにつながる授業改善について理解を深め、授業力が向上したと感じる職員の割合 A：80%以上 B：70%以上～80%未満 C：60%以上～70%未満 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善  <b>達成度判断基準</b> 3項目の職員アンケート内容に対し、2項目以上に「できた」「ややできた」と回答した職員の割合が70%以上	【職員アンケート】3項目 ア. 授業力向上に向け、研究会では授業改善について意見を伝えることができた。 イ. 研究授業及び普段の授業において、各グループのテーマに沿った授業づくりにおける児童生徒の姿を具体的にイメージすることができた。 ウ. 研究会を通して学んだことを普段の授業場面で生かすことができた。	各教員の「できた・ややできた」項目数の割合 ①3項目②2項目③1項目④0項目  達成度の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="1323 384 1742 443"> <tr><th>①</th><th>②</th><th>③</th><th>④</th></tr> <tr><td>97</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> 【結果】A「①+②」=100%  各項目の①+②の割合(単位%) <table border="1" data-bbox="1323 560 1742 683"> <tr><th></th><th>できた</th><th>ややできた</th><th>ほとんどできなかった</th><th>できなかった</th></tr> <tr><th>ア</th><td>50</td><td>50</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><th>イ</th><td>47</td><td>53</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><th>ウ</th><td>40</td><td>53</td><td>7</td><td>0</td></tr> </table>	①	②	③	④	97	3	0	0		できた	ややできた	ほとんどできなかった	できなかった	ア	50	50	0	0	イ	47	53	0	0	ウ	40	53	7	0	アンケートの結果、2項目以上に「できた」「ややできた」と回答した教員(①+②)の割合は、100%となり、A評価となった。中間評価から①(3項目ともできた)の数値が上がる結果となった。 「教科における深い学びを導くための発問や、問いを考える力が向上した」「生徒が互いに学び合うための工夫を考えることができた」「実体験を通して得られる体験は多くの学びや気づきにつながる事が分かった」等、各グループ研究会での授業改善に向けた意見交換を通して、児童生徒の思考の流れや授業展開、教材提示等について教員の学びを深めることができた。次年度は児童生徒が「教科の見方・考え方を働かせること」に着目し、さらなる深い学びへの実現を図っていく。					
①	②	③	④																																				
97	3	0	0																																				
	できた	ややできた	ほとんどできなかった	できなかった																																			
ア	50	50	0	0																																			
イ	47	53	0	0																																			
ウ	40	53	7	0																																			
	② <専門性の向上> 社会に開かれた教育課程を目指し、児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業展開や各教科の指導の充実を図る。	教務課 全学部	指導内容表や学習指導要領をもとにして年間指導計画や個別の指導計画を作成し教科指導の充実に努めている教員の割合  A：80%以上 B：70%以上～80%未満 C：60%以上～70%未満 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善  <b>達成度判断基準</b> 職員アンケートの2項目ともに、「できた」「ややできた」と回答した職員の割合が70%以上	【職員アンケート】2項目 ア. 指導内容表や学習指導要領をもとに、各教科の3観点を意識して授業実践している。 イ. 個別の指導計画の各教科において、児童生徒の目標達成にむけて、個々の実態に応じた支援、手立てをしている。  ※各教科の3観点 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	各教員の「できた・ややできた」の項目数の割合 ア a. できた 30% b. ややできた 64% c. あまりできなかった 6% d. できなかった 0% イ a. できた 33% b. ややできた 64% c. あまりできなかった 3% d. できなかった 0%  各項目の割合(%) <table border="1" data-bbox="1323 1145 1742 1358"> <tr><th colspan="2"></th><th colspan="4">ア</th></tr> <tr><th colspan="2"></th><th>a</th><th>b</th><th>C</th><th>d</th></tr> <tr><th rowspan="4">イ</th><th>a</th><td>24</td><td>9</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><th>b</th><td>6</td><td>52</td><td>6</td><td>0</td></tr> <tr><th>c</th><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><th>d</th><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> ア、イの2項目ともに「できた」「ややできた」と回答した割合 【結果】A 91%			ア						a	b	C	d	イ	a	24	9	0	0	b	6	52	6	0	c	0	3	0	0	d	0	0	0	0	アンケートの結果、2項目以上に「できた」「ややできた」と回答した割合は91%で、A評価となった。最終評価のアンケートでは2つの項目において「できなかった」と回答した教員はおらず、これは学習指導要領をもとに年間指導計画を立案し個別の指導計画では個々の目標達成に向けた支援と授業実践を教員が意識して取り組んだ結果といえる。 今回の取組で授業実践における工夫点が多く挙げられたが、その一方で「あまりできなかった」理由として「各教科等を合わせた指導の中には複数の教科の観点やねらいを常にすべての授業で実施するのが難しい」という意見や、「年間指導計画の立案においても、各教科等を合わせた指導と各教科でとりあげる内容のバランスが難しい」との意見もあった。 年間指導計画を作成するには、指導内容表を照合し、各教科の内容の調整をはかり、次年度の実践につなげていく。
		ア																																					
		a	b	C	d																																		
イ	a	24	9	0	0																																		
	b	6	52	6	0																																		
	c	0	3	0	0																																		
	d	0	0	0	0																																		

<p>(2) キャリア教育の推進</p>	<p>① &lt;プログラムの活用&gt; 錦城版キャリア教育プログラム(改訂版)を活用し、家庭と連携し個々のキャリア発達を促す取組を実践する。</p>	<p>支援課各担任</p>	<p>本校のキャリア教育の内容を理解し、家庭でも取り組んでいる保護者の割合 〔今年度取り組む項目【社会で生きる力】(係活動・お手伝い)〕</p> <p>A: 80%以上 B: 70%以上～80%未満 C: 60%以上～70%未満 D: 60%未満 B以上 C・Dは工夫改善</p> <p><b>達成度判断基準</b> 『めざせ！お手伝いマスター!!』の取り組み週間において、児童生徒が家庭でのお手伝いや係の仕事に取り組んだ割合が70%以上</p>	<p>【保護者・取組みカード結果】 <b>1項目</b></p> <p>ア. 『めざせ！お手伝いマスター!!』の取組週間において、家庭で行う係やお手伝いを決め、児童生徒が家庭でのお手伝いや係の仕事に取り組みましたか。</p>	<p>児童生徒が、家庭でのお手伝いや係の仕事に取り組んだ数の割合</p> <p><b>10月実施</b></p> <p>a. 取り組んだ 86% b. 取り組んでいない 14%</p> <p>取組の割合(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>6月</th> <th>10月</th> <th>年間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.</td> <td>85</td> <td>86</td> <td>85.5</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>14.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>「a. 取り組んだ」の内訳(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>6月</th> <th>10月</th> <th>年間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゴールド</td> <td>73</td> <td>67</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>シルバー</td> <td>21</td> <td>28</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>ブロンズ</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>ゴールド: 8回以上(10日中) シルバー: 4～7回(10日中) ブロンズ: 1～3回(10日中)</p> <p><b>【結果】 A 85.5%</b></p>		6月	10月	年間	a.	85	86	85.5	b.	15	14	14.5		6月	10月	年間	ゴールド	73	67	69	シルバー	21	28	25	ブロンズ	6	5	6	<p>キャリア発達に向けて、今年度は「認められる場面をたくさん作るう」をテーマとし、保護者と連携して児童生徒が家庭でのお手伝いに取り組めるようにした。前期同様に、懇談を通じて保護者と家庭でできそうなお手伝いを一緒に考え、取組期間に実施することをすすめたところ取り組んだ家庭は86%となり、年間を通じて85.5%のA評価となった。このことから多くの家庭で取組まれ、児童生徒の認められる場面につながったと考えられる。</p> <p>担任と保護者がお手伝いの内容について一緒に考えることで、児童生徒の様子に応じて無理のないかたちで取り組むことができ、多くの児童生徒が最高位(ゴールド)の評価に達することができた。</p> <p>今後も家庭と連携して児童生徒のキャリア発達を促す取組を実施するとともに、本校のキャリア教育について、保護者に理解を促していきたい。</p>
	6月	10月	年間																															
a.	85	86	85.5																															
b.	15	14	14.5																															
	6月	10月	年間																															
ゴールド	73	67	69																															
シルバー	21	28	25																															
ブロンズ	6	5	6																															
	<p>② &lt;進路支援の充実&gt; センター的機能を発揮し、地域の小中学校や保護者への研修会等を継続し、進路支援や相談の充実を図る。</p>	<p>支援課</p>	<p>進路支援や発達に関する研修会に参加して、内容に満足している研修会参加者の割合</p> <p>A: 80%以上 B: 70%以上～80%未満 C: 60%以上～70%未満 D: 60%未満 B以上 C・Dは工夫改善</p> <p><b>達成度判断基準</b> アンケートに「とても満足できた」「概ね満足できた」と回答した参加者の割合が70%以上</p>	<p>【参加者へのアンケート】 <b>1項目</b></p> <p>ア. 卒業後の進路を考える研修会で、内容がわかり満足できましたか。</p>	<p>研修会参加者アンケート4段階評価の割合</p> <p><b>11月実施(有効回答11名/11名)</b></p> <p>a. とても満足できた 82% b. 概ね満足できた 9% c. あまり満足できなかった 9% d. 満足できなかった 0%</p> <p>年間結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>7月</th> <th>11月</th> <th>年間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a.</td> <td>61</td> <td>82</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>b.</td> <td>39</td> <td>9</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>c.</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>d.</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【結果】 A 「a+b」 97%</b></p>		7月	11月	年間	a.	61	82	69	b.	39	9	28	c.	0	9	3	d.	0	0	0	<p>11月実施の『卒業後の進路を考える研修会』に参加し、アンケートに回答した方の多く(a+b=91%)が「とても満足できた」「概ね満足できた」と答え、7月に実施した研修会の評価と合わせると97%となり、A評価となった。このことから子どもの進路を考えるための有益な研修会となったことが窺える。</p> <p>11月の研修会において満足した理由については、在学中にできる支援について理解することができた、「子どもが自ら意思決定できるための支援が大切だと思った」、「困った場面でのどのような対応が大切なのか分かった」等の意見があり、参加者にとって、様々な困難さのある子どもの理解や関わり方、将来を見据えた支援についての理解が深められたのではないかと考えられる。</p> <p>今後も参加者のニーズに合った研修会を企画できるよう、さらに検討を重ねていく。</p>								
	7月	11月	年間																															
a.	61	82	69																															
b.	39	9	28																															
c.	0	9	3																															
d.	0	0	0																															

(3) 安心・安全な学校づくり	① <安全・防災に関する教育活動の充実> 危機管理マニュアルの見直しをはかり、防災教育に関する授業や行事等を計画的に行う。	保健課各担任	災害への備えを意識した環境整備や環境の把握に努めている教員の割合。 A：80%以上 B：70%以上～80%未満 C：60%以上～70%未満 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善  <b>達成度判断基準</b> 災害への備えを意識した安全点検10項目のうち、6項目以上意識して取り組んでいる教員の割合が70%以上	<b>【教員アンケート】10項目</b> 以下の災害への備えを意識した環境整備や改善に努めている <ol style="list-style-type: none"> <li>① 出入りに避難の妨げになる物がないか確認している。</li> <li>② 防災頭巾を所持するよう声かけをしている。</li> <li>③ 高さのある棚に荷物が置いていないか確認している。</li> <li>④ 消火器の場所の確認をしている</li> <li>⑤ コンセントにホコリ等が溜まっていないか確認している。</li> <li>⑥ 老朽化している所がないか確認している。</li> <li>⑦ 担架や車イス等が設置されている場所を把握している。</li> <li>⑧ 避難経路の確認を行っている</li> <li>⑨ 備蓄品、非常用物資の場所を把握している。</li> <li>⑩ 壁や床等に、亀裂がないか確認している。</li> </ol>	災害への備えを意識した環境整備や環境の把握に努めている教員の割合(%)  ※教員アンケート10項目中 8個以上……………a 6個以上8個未満…b 4個以上6個未満…c 3個以下4個未満…d	災害への備えを意識した環境整備や環境の把握に努めている教員の割合(a+b)は、中間評価と同じ結果であったが、「8個以上意識している」と回答した教員の割合が増えたことから、教員の意識が高まってきていると考えられる。 しかし、質問項目⑤、⑨については、3割程度の教員が意識できていないことから、その重要性についての周知が不十分であったことが要因として考えられる。 今後に向けて、教員の意識をさらに高めていけるように、各教室内に災害への備えを意識できるような掲示物を準備したり、学部会等で課題を共有したりする等の工夫を行っていききたい。また、さらなる環境整備や環境の把握に努めていけるよう、項目や点検方法についても見直し、管理職や指導課とも連携・協力しながら、安全点検の体制を整えていきたい。達成度の低い項目については再度確認する機会を設け、教員の意識の向上へとつなげていく。																													
		指導課各担任	学校での防災学習や災害対策が分かり、授業参観等でのその指導内容に満足している保護者の割合 A：80%以上 B：70%以上～80%未満 C：60%以上～70%未満 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善  <b>達成度判断基準</b> 学校の防災教育や災害対策についてのアンケートで、2項目ともに肯定的な回答をした保護者の割合が70%以上	<b>【保護者アンケート】2項目</b> <学校の防災教育> ア. 学校の防災教育や災害対策について理解していますか  <防災通信> イ. 防災通信等を見て、災害時に児童生徒が適切に避難行動等とれる内容だと思いますか。	学校の防災教育や災害対策についての保護者の理解の割合、防災通信についての保護者の満足度の割合 ア. a. 理解している 27% b. 概ね理解している 61% c. あまり理解していない 12% d. 理解していない 0% イ. a. 思う 39% b. やや思う 61% c. あまり思わない 0% d. 思わない 0% ア、イの2項目ともにa、bと回答した割合	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学部</td> <td></td> <td>72</td> <td>21</td> <td>7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学部</td> <td></td> <td>60</td> <td>30</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>高等部</td> <td></td> <td>83</td> <td>17</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td></td> <td>72</td> <td>22</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> a. 8個以上 72% b. 6個以上～8個未満 22% c. 4個以上～6個未満 6% d. 3個以下 0%			a	b	c	d	小学部		72	21	7	0	中学部		60	30	10	0	高等部		83	17	0	0	全体		72	22	6
		a	b	c	d																														
小学部		72	21	7	0																														
中学部		60	30	10	0																														
高等部		83	17	0	0																														
全体		72	22	6	0																														

**【結果】 A 「a+b」 94%**

**【結果】 A 88%**

<p>(4) 業務の効率化の工夫</p>	<p>①</p>	<p>&lt;業務の効率化と環境改善&gt; 分掌業務のデジタル化と共有化を推進し、各部・各課がマニュアルやスケジュール等をもとに業務の効率化や平準化を目指す。</p>	<p>教頭 各課 全学部</p>	<p>各部・各課（計10部署）において効率化や平準化についての具体的な方策を3つ以上考え、協働して業務改善を図った部署の割合。</p> <p>A： 8/10以上 B： 7/10 C： 6/10 D： 5/10以下 B以上 C・Dは工夫改善</p> <p><b>達成度判断基準</b> 各部・各課（計10部署）において、効率化や平準化についての具体的な方策を3つ以上考えて取り組んだ部署が7部署以上。</p>	<p><b>【各部・各課アンケート】</b> <b>1項目</b></p> <p>ア. 前期、効率化や平準化について考え取り組んだ具体的な方策の数はいくつですか。</p>	<p>効率化や平準化について考え取り組んだ各部・各課の割合。</p> <p>a. 3つ以上 8部署 b. 2つ 1部署 c. 1つ 1部署 d. 0 0部署</p> <p><b>【結果】 A 8/10</b></p>	<p>10の部署のうち、8部署において3つ以上具体的な方策を考え業務改善に取り組んだとの回答を得られ、中間評価のC評価からA評価となり各部署で工夫して取り組んだ様子うかがえる結果となった。</p> <p>中間評価の時点では、取組の方策が具体的に示されなかった部署も、他を参考にして取り組み、具体的な方策として定着してきた「課会資料のペーパレス化・事前の資料配布」「業務内容の見える化」「スクールサポートスタッフへの業務依頼」に加え、「Teamsでの共同編集」「資料・教材作成における生成AIの活用」等の工夫があげられた。</p> <p>特に生成AIの活用で業務時間が短縮されたとの声も聞かれ、活用が浸透してきている。時間外勤務時間については、昨年度の実績から一人当たりの月平均が6時間削減されており、業務の効率化が進んでいることがうかがえる。</p> <p>今後はそれぞれの教員の強みを生かし、知識の共有とチーム連携による業務の協働化を進め、さらなる効率化を目指していきたい。</p>
----------------------	----------	--	--------------------------	---	---	--	--